

# 青立ちしにくい大粒大豆「里のほほえみ」の 認定品種採用

農業総合センター農業研究所

近年、大豆主力品種「タチナガハ」では青立ち症状が問題となっています。青立ちは、莢が成熟しているのに、茎葉が青々としている状態で、収穫時の汚粒発生等により、コンバイン収穫が困難となります。「里のほほえみ」は、「タチナガハ」で問題となっている青立ち症状が発生しにくく、莢がはじけにくい特徴があります。最下着莢節の位置は高く、大粒で蛋白質含有率も高いことから、認定品種に採用されました。

## 青立ちしにくい「里のほほえみ」

- ・青立ちが発生しにくい

「タチナガハ」で青立ちが多発した平成24年においても、「里のほほえみ」は青立ちがほとんど発生しませんでした（写真1）。

- ・莢がはじけにくい

「里のほほえみ」の裂莢性は“難”で莢がはじけにくく、裂莢性が“中”で成熟期を過ぎると莢がはじけやすい「タチナガハ」に対して、脱粒による減収を防げます（表）。



里のほほえみ

タチナガハ

写真1 成熟期の青立ち発生の様子

表 「里のほほえみ」の特性

品種名	開花期	成熟期	主茎長 (cm)	最下着莢節 位高 (cm)	百粒重 (g)	子実重 (kg/a)
里のほほえみ	8.1	10.19	57	16	38	31
タチナガハ	7.30	10.23	53	12	35	32

品種名	粗蛋白質 含有率 (kg/a)	花色	葉の形	裂莢性	病害虫抵抗性	
					ダイズダイズ モザイクシスト ウイルス	センチュウ
里のほほえみ	31	白	円葉	難	強	弱
タチナガハ	32	紫	長葉	中	中	弱

## 「里のほほえみ」の特性

「里のほほえみ」は円葉・白花で、長葉・紫花の「タチナガハ」とは簡単に区別できます（表・写真2）。

莢の着生位置が高く、また倒伏にも強いいため、機械収穫に適しています。

収量は「タチナガハ」と同等で、子実が大きく（写真2）、蛋白質含有率が高いため、豆腐加工適性に優れます。

里のほほえみ

タチナガハ



葉の形



子実

写真2 子実の比較および葉の形の違い

## 栽培上の注意点

ダイズシストセンチュウには「タチナガハ」と同様に弱いので、発生ほ場での作付けや連作は避けてください。

気象条件等によって、べと病の発生が見られますので、多発が懸念される際には適宜防除を行ってください。